

S. cerevisiae由来のATP硫酸化酵素、組換え型

Cat. No. NATE-1280

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 酵素学において、硫酸アデニル転移酵素（EC 2.7.7.4）は、次の化学反応を触媒する酵素です： $\text{ATP} + \text{硫酸} \leftrightarrow \text{二リン酸} + \text{アデニル硫酸}$ 。したがって、この酵素の二つの基質はATPと硫酸であり、その二つの生成物は二リン酸とアデニル硫酸です。この酵素は転移酵素のファミリーに属し、特にリンを含むヌクレオチド基（ヌクレオチジル転移酵素）を転送するものです。この酵素は、プリン代謝、セレンオアミノ酸代謝、硫黄代謝の3つの代謝経路に関与しています。

別名 ATP-サルファリラーゼ; アデノシン-5'-トリフスフェートサルファリラーゼ; アデノシントリフスフェートサルファリラーゼ; アデニル酸硫酸ピロリン酸化酵素; ATPサルファリラーゼ; サルファリラーゼ; EC 2.7.7.4; 9012-39-9; 硫酸アデニル酸転移酵素

製品情報

種	S. cerevisiae
由来	E. coli
CAS登録番号	9012-39-9
濃度	8 U/mL
単位定義	1単位は、37°Cで1分間に1pmolのAMPを酸不溶性物質に取り込む酵素の量です。

保管・発送情報

保存方法 -20°Cで